

2026
1/1
新春
特別号

皆様と共に考え行動し… 市民に開かれた京都市政を！

京都市会議員

田中あきひで ニュースレター

発行者
田中 あきひで
発行責任者
稲生 茂一

新年あけましておめでとうございます。

昨年末、青森県東方沖地震が起きました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧をお祈りいたします。

昨年10月21日には我が国の憲政史上初となる女性総理の高市早苗内閣が誕生いたしました。期待感あふれる船出となり、内閣支持率は高水準で推移しております。今の暮らしや未来の不安を希望に変えるためにも「強い経済」をつくり、「責任ある積極財政」の考え方の下、戦略的に財政出動を行い、日本経済の供給構造を強化し、所得の増加、消費マインドの改善、事業収益の増加により税率を上げずとも税収を増加させることを目指す。その好循環を実現することによって景気回復を実感していただく。そのためにも高市総理には働いて働いて働いていただきたいと思います。私共地方議員も、国とのパイプの中で市民生活の向上に向けて働いて働いて働いてまいります。

京都市政におきましては、昨年11月市会で、今後四半世紀の京都市のまちの在り方を展望する「京都基本構想」が策定されました。この基本構想策定にあたっては審議会の答申や次の時代を担う若者で構成する未来共創チーム会議の設置、パブリックコメントにおける市民意見、我々市会との議論も踏まえての市政の基本方針です。1999年に策定した基本構想からこの25年間で、グローバル化の進展、インターネットやAI技術の普及、気候変動の影響の顕在化、自然災害の激甚化、感染症の流行、戦争・紛争の発生と継続、様々な社会的分断の顕在化など、京都を取り巻く環境は大きく変化しています。京都のまちも、伝統を保全・継承する担い手、伝統的な町並みや京都ならではの生業のあり方、生活文化や神事など、長い年月を掛けて京都の先人たちが日常の中で大切に育み紡いできた「本物(ほんまもん)」が失われてしまう危機すら感じられる状況になっています。直面する課題



情熱
対話・
行動・
!!

に向かい合いながら、京都が京都であり続けるため、市民の皆様とともに後世に伝え遺すべきまちの基軸となる価値観を示す京都基本構想として取りまとめとられました。今後とも京都の先人たちが積み重ねてきた普遍的な「まち柄」を100年先、200年先にも伝えていけるようにしていかなければなりません。

地元・西京区では、洛西の高島屋が本年8月3日をもって営業終了と発表されました。バスの路線の廃止・減便等住民の皆様の不安が広がる中、これを食い止めるために、かねてよりバスの自動運転の実装化を洛西でと提案してまいりました。本年から洛西で取り組んでいただくことが11月市会にて正式に決まり、新たな交通システムへの展望が開けました。芸大の跡地活用を含めて、洛西の、西京のまちづくりに更に努力してまいります。

引き続き皆様と共に考え、行動し、市民に開かれた京都市政となりますよう全力で取り組んでまいります。変わらぬ御指導・御支援をお願いいたします。本年もよろしくお願い申し上げます。

令和8年 新春 後援会行事のお知らせ

1月24日(土) 令和8年初春 伊勢神宮初詣
2月8日(日) 京都市会議員 田中あきひでを囲む会
《田中明秀後援会総会》～市政報告・懇親会～
お申込み・お問い合わせは、お近くの後援会役員または田中あきひで事務所まで

京都市会議員

田中あきひで 事務所

〒615-8227 京都市西京区上桂宮ノ後町38-2 田中ビル3F
TEL 075-204-6128 FAX 075-205-1508
E-mail tanaka_akihide@nike.eonet.ne.jp
URL http://tanaka-akihide.com/

Facebook・Instagram
を開設しています。
ぜひご覧ください。

市政報告

11月28日の京都市会本会議において、自民党市会議員団を代表し、市政一般について質問いたしました。

来年度予算編成、今後の保健福祉行政、地域コミュニティのありかた、自転車の青切符制度や洛西地域における自動運転バスの実装化についてなど、京都市の未来図や市民生活と地域経済の更なる活性化について質問させていただいております。

今後皆様方のご意見を施策に生かし取り組んでまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

令和8年度予算編成について

市民の皆様は「希望」を抱いていただく、そうした想いを込めた我が会派の要望をしっかりと踏まえていただき、財政規律を堅持する中においても、必要な施策にはしっかりと財源を配分していただきたいと思いますと考えますが、令和8年度予算編成に向けた市長のお考えをお聞かせ下さい。

▷市長

令和8年度予算編成についてでございます。

予算編成に当たっては、これまででも新京都戦略に基づき将来世代にも配慮した財政運営を前提に京都に根付く本質的な価値の継承とポテンシャルを活かした施策などに積極的に予算を配分してまいりました。

また、今市会で提案しております京都基本構想案では京都が大切にしてきた価値観やまち柄、今後四半世紀で目指す姿をお示しており、京都の多彩な学藝を取り巻く人のつながりを活かして夢中になれる学びの場を創出し、幅広い世代が共に学び合う京都学藝衆構想の展開などを通じて、まちが醸成してきた唯一無二の価値を広く市内外に伝え、後世に遺していきたいと考えております。

この考え方の下、令和8年度予算編成においても理念と現実の間にある課題を乗り越え、京都の本物の価値を継承し、高める施策に重点的に配分してまいります。

自由民主党京都市会議員団からの御要望についてもまちを発展させ、市民の皆様は希望を持っていただく観点で京都基本構想案と方向性を一にしたものと考えており、これらも踏まえつつ、施策を検討してまいります。(以上)

保健福祉行政の推進について

本市としても、国の施策とも歩調を合わせ、市民の「いのち」と「くらし」を守る役割を果たすため、医療、介護、障害等の公的サービスが今後も安定的に提供されるための取組を一層強化していくべきだと思いますが、いかがでしょうか。

▷市長

今後の保健福祉行政の推進についてです。

今般、高市首相が社会保障制度改革に取り組む姿勢を明言されたことは、避けては通れない困難な課題に真正面から向き合おうとされるものであり敬意を表します。

本市としても、増大する医療・介護給付費や、医療・介護・障害サービス等の担い手確保という大きな2つの課題にしっかりと対応していく必要があります。

まず、前者については、がん検診の受診率向上や生活習慣病対策の強化に加え、より自立度を高めるための介護予防支援計画の導入を検討するなど、予防できる疾病等はしっかりと予防し、市民の健康寿命の延伸を図ることで、ひいては医療・介護給付費の抑制にも繋がるものと考えています。後者につい

ては、介護・医療の仕事の重要度に見合った給与水準と社会的評価が最も重要との認識の下、引き続き国に対して処遇改善を求めていくとともに、有資格者の復職支援等、担い手の裾野の拡大に関係団体と協働して取り組むことに加え、新たに障害者福祉サービス事業所へのICTの導入を検討し、働きやすい環境整備と利用者へのサービス向上に努めてまいります。

命と暮らしを守ることは基礎自治体としての使命の根幹であり、今後も国と連携し、その使命をしっかりと果たしてまいります。(以上)

公共空間の創出について

市長並びに市会、国会議員からの働きかけによって、今までにない新たな動きが出てきたものと思いますが、市長は今般の国の見解について、どのように受け止められているのでしょうか。また、これを踏まえて、本市では今後どのように対応されるお考えか、お伺いいたします。

▷市長

民泊対策についてでございます。

民泊については、観光客の急増に伴い、騒音やゴミ出しなどに起因する近隣トラブルや地域コミュニティの維持への支障といった問題が顕著に生じていると認識しております。

これらの解決には、国の法制度全体における抜本的な対応が不可欠であるため、市会の先生方とともに、一貫して要望してきたところでございます。

今月には、自民党の京都市会議員団や、京都選出の国会議員の皆様が、民泊の規制強化について、強く関係省庁に働きかけていただくとともに、私も関係省庁を訪問し、直接要望してまいりました。

これらの成果として、今般、厚生労働省より示された旅館業法の趣旨・目的の中で、条例により立地規制できる可能性があるとの見解は、本市の要望が、国に受け止められ始めた、重要な一歩であると認識しております。

こうした見解を踏まえ、今後、全庁横断的に設置している「民泊」対策プロジェクトチーム等において、「民泊」規制の強化について検討を加速化し、本市から国へ具体的な内容を示し積極的に働きかけてまいります。(以上)

民泊対策について

こうした住民にとって身近で親しみのある場を活用し、住民の皆さんにとって居心地良く気軽に交流ができるサードプレイス化の取組は、今後とも大いに進めていただきたいと思います。ですが、そのためにも、ソフトの取組だけでなくハード面からの空間創出も大事ではないでしょうか。

松井市長が目指す「居場所と出番」が生まれる環境を整備するためにも、区役所庁舎や図書館はもちろんのこと、その他の公共空間においても、施設の持つポテンシャルや地域の特性、そして何より住民のニーズを踏まえながら、創意工夫を凝らした空間創出をさらに進めていただきたいと思います。市長のお考えをお聞かせください。

▷市長

公共空間の創出についてでございます。

公共空間をまちに開き、市民のつながりや支え合いを創出するため、地域コミュニティHubの枠組みの下で、ソフト中心の場づくりの取組を進めているところですが、議員御指摘のと

おり、ハード面からの空間創出も重要であると認識しております。
区役所庁舎や図書館といった公共空間の活用以外にも、例えば、洛西ニュータウンでは、タウンセンター広場や小畑川中央公園の一部の再整備に向けて、遊びの空間や小畑川の景色を望む憩いの空間を創出し、広場・公園の将来像を体験する市民参加型の社会実験を開催するなど、ハード・ソフト両面からの取組を進めております。

このように、サービスや機能だけでなく、その場に集い、交流する「人」を中心とした場所にデザインするとともに、市民が関われる余白の中で、つながりづくりや学び合いが生まれる公共空間にアップデートしていきたいと考えております。

今後とも、市民の皆様にあいさつされ、親しまれる公共空間を創出し、すべての人に居場所と出番があり、生きがいを持って活躍できるまちの実現につなげてまいります。（以上）

マンション等居住者の自治会、町内会への加入促進について

マンション居住者と地域をしっかりと結び付けるためには、マンション供用開始後の地域コミュニティとの関係についても、地域コミュニティ活性化推進条例に明確な規定を置いたうえで、行政としてしっかりとメッセージを発信していく必要があると思いますが、市長のお考えはいかがでしょうか。

▷市長

マンション等居住者の自治会・町内会への加入促進についてでございます。

地域コミュニティは、住民同士のつながり、安心安全だけでなく、京都の発展を支えてきた重要なものであり、増加しているマンション居住者をいかに地域コミュニティにつなげるかについても重要な課題として認識しています。

これまで本市では、事業者と地域が建築前に協議する転入者地域交流支援制度のほか、供用開始後の加入促進として、マンション管理組合や住宅関連事業者、転入者への働きかけを実施してまいりました。

一方で、地域や福祉の現場からは、マンション居住者に、町内会加入や地域行事の案内を届ける方法がない、孤立しがちな独居高齢者にアプローチしづらい、という声もお聞きしています。

田中明秀議員の御提案を踏まえ、マンション供用開始後においても、マンション内のコミュニティ形成や周辺地域との連絡調整・交流を促進するための規定を地域コミュニティ活性化推進条例に追加する方向で、速やかに地域コミュニティ活性化推進審議会等での議論を行ってまいります。（以上）

自転車の安全な利用に向けた取組について

現在、自転車総合計画の改定についても議論されているところだと思いますが、今後、青切符制度の導入を契機として、更なる自転車の安全利用環境の充実に取り組むべきと考えますが、いかがですか。

▷竹内副市長

自転車の安全利用環境の充実にについてでございます。

この度の青切符制度は、近年の自転車事故の原因として、自転車側の法令違反が多い状況を踏まえ導入されるものであり、これを機に、市民や観光客の皆様にも正しいルールを改めて認識いただく必要がございます。

このため、警察と連携した安全教室や街頭啓発等に加え今



後は、地下鉄広告や市民しんぶんなど、多様な媒体も活用し、青切符制度の周知やルール・マナーの啓発、都心部の通行規制等についてしっかりと周知してまいります。

また、誰もが安心・安全に通行できる環境整備も重要です。自転車の通行位置を示す路面表示である矢羽根等を中心とした走行環境の整備を進めており、今後は、道路状況に応じて自転車専用通行帯も含めた整備を検討するとともに、周辺地域への矢羽根等の整備を拡大してまいります。

現在、審議中の次期京都市自転車総合計画において、安全な利用環境の更なる充実とともに、自転車交通の役割拡大について議論を進め、持続可能で豊かなまちを目指してまいります。（以上）

都市交通の未来に向けた自動運転の活用の展望について

優れた道路環境が整う洛西地域でこそ、自動運転技術を活用した新たな公共交通システムを構築することが期待できるのではないのでしょうか。

本市の都市交通の未来に向けた、自動運転の活用の展望、とりわけ洛西地域における可能性についてお伺いします。

▷市長

都市交通の未来に向けた自動運転の活用の展望についてでございます。

田中明秀議員ご指摘のとおり、自動運転技術を京都の都市交通の未来にどのように活用していくか、その展望を持つことは極めて重要であります。

先の9月市会では、「まずは大きな可能性のある」自動運転バスの実装に向けた実証実験の補正予算を議決いただきました。

自動運転バスは、都市の成長と発展のために欠かせない公共交通の維持・確保、ひいては利便性の高い新たな交通システムを中心とした「人と公共交通優先」の道路交通への転換にも繋がると考えています。

自動運転バスの実証実験は、道路環境等を総合的に考慮し、かねてから議員ご推薦の洛西地域で実施することといたします。詳細は追ってお知らせいたしますが、他の地域への展開を見据えて知見を蓄積するとともに「洛西SAIKOプロジェクト」とも連携し、まず、洛西地域での実装化を進めてまいります。

同時に、引き続き様々な新交通システムの研究・検討も深め、これからの京都にふさわしい公共交通体系の構築を図ってまいります。（以上）

委員会報告

自動運転大型バスの実証実験が精華町にて実施され、試乗してまいりました。

自動運転車両の運行には、システムを遠隔監視する監視員と安定した通信回線の確保が必須です。まだまだ課題はありますが、京都市も持続可能な地域公共交通の確立のため、自動運転バスの社会実装へ向けた実証事業に取り組んでまいります。



遠隔監視システムの様子



今回検証されたのは自動運転レベル2（部分運転自動化）のバスです（昨年9月2日）

自動運転のレベル分けと開発状況

